

最近の転落事故の発生状況

(単位:件)

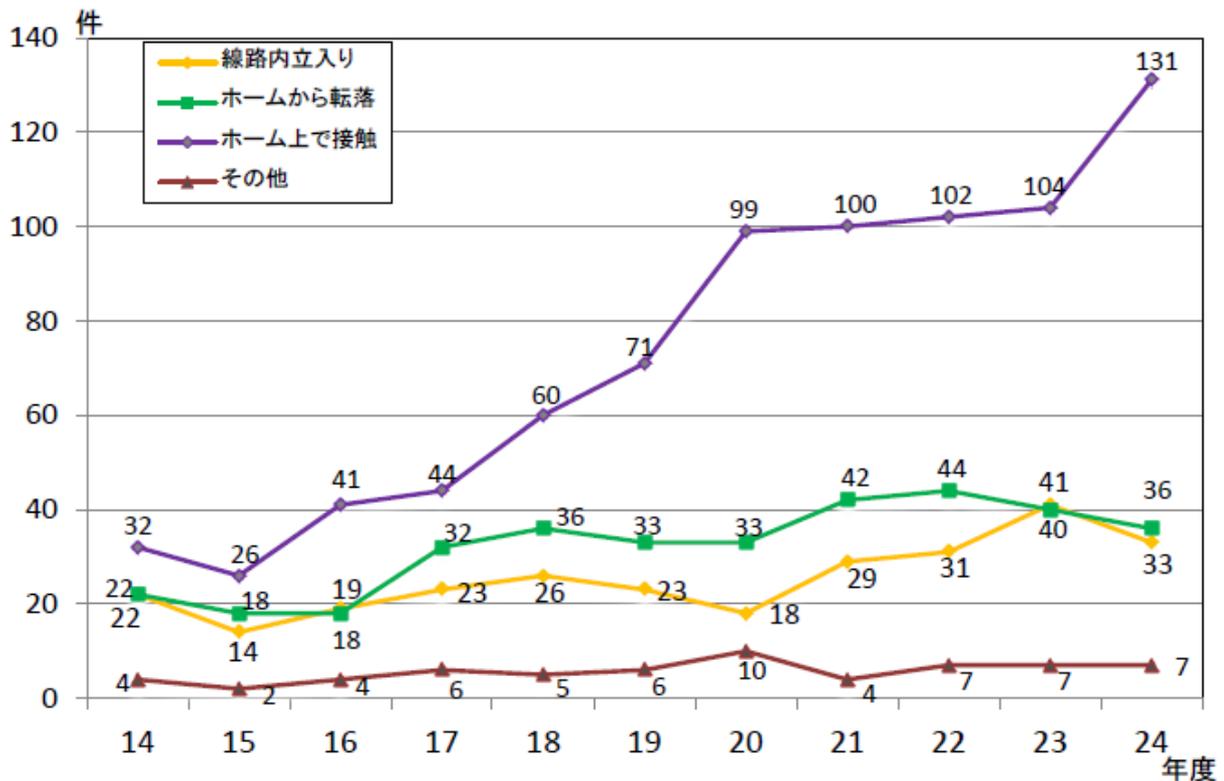
平成23年度

	ホームからの転落	ホーム上で接触	合計
全国	61	148	207
埼玉県	7	16	23

平成24年度

	ホームからの転落	ホーム上で接触	合計
全国	48	175	223
埼玉県	4	11	15

人身障害事故の原因別発生状況の推移 (関東運輸局管内)



※関東運輸局管内は東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、茨城県、栃木県、群馬県、山梨県が該当

「ホームドアの整備促進等に関する検討会」 中間とりまとめの概要

平成23年8月

1. ホームドア等の転落防止対策の優先整備駅の考え方

○視覚障害者からの要望が高い駅

- ・駅周辺の視覚障害者の関連施設やホームの状況等を勘案し、優先度や必要な対策等を検討

○駅の利用者数が多い駅

- ・利用者数1万人以上の駅で、ホームでの事故(1,253件)^{注)}の約8割が発生
- ・このうち、特に利用者数の10万人以上の駅は、一駅当たりの事故発生件数(1.82件/駅)が多い

注)平成14～21年度の間にホームから転落又はホーム上で列車と接触により発生した鉄道人身障害事故件数

2. ホームドア等の転落防止対策の進め方

利用者数1万人以上の駅

内方線付きの点状ブロック等の整備を可能な限り速やかに実施

利用者数10万人以上の駅

- ホームの状況等(混雑度や形状、事故の発生状況等)を踏まえ、ホームドア又は内方線付き・JIS規格対応の点状ブロックの整備を優先して速やかに実施(点状ブロックは概ね5年で整備)
- 車両扉位置が一定である等、ホームドア設置が可能な駅は、停車時分の増加やコスト等の課題の検討を踏まえてその整備を優先。この場合、路線や区間単位による整備も検討

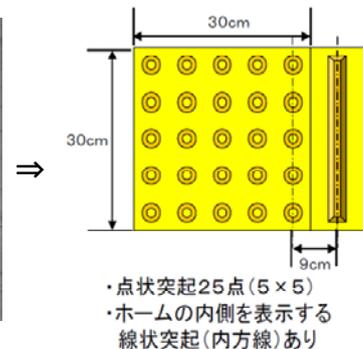
注)ホームドアの整備が困難な場合は、音声・音響・光等による列車接近警報装置や係員による人的介助等の総合的な対策を可能な限り速やかに実施し、転落防止対策の効果をより一層向上



【ホームドア】



【内方線付きJIS規格点状ブロック】



「心のバリアフリー」に関するソフト施策の一体的な推進

- 鉄道係員に対するバリアフリー教育、研修等の人的対応の充実
- 旅客による視覚障害者への声かけやマナー、旅客のホームでの安全に関する教育啓発の強化
- 駅の転落防止対策の状況等、駅に関する視覚障害者への情報提供 等

3. 転落防止対策の推進に対する支援

- 国、地方公共団体による必要な支援
- 車両扉位置の相違やコスト低減等の課題に対応可能な新たなホームドア等の研究開発の推進
- 国、地方公共団体、事業者等関係者の連携による視覚障害者の誘導案内、啓発活動等のソフト施策の推進

4. 転落防止対策に関する計画の作成・公表

- 今後の転落防止対策の進め方に関する方針、計画について、事業者が安全報告書等により公表

駅ホームからの転落事故が増加していることを受け、ハード対策、ソフト対策の両面から、駅の安全・安心をより効果的に促進するため以下の施策を行っています。

ハード対策

ホームドアの整備促進

内容 ホームドア設置のため、ホーム改良・ホームドア設置工事の設計費に対し、経費の一部を助成



対象：
平成26年度は東武東上線
和光市駅、川越駅を予定

内方線付き点状ブロックの整備促進

内容 内方線付き点状ブロックの整備補助を行う市町村に対し、経費の一部を助成

対象：平成26年度は35ホーム程度を予定



既設の点状ブロック



内方線付き点状ブロック

ソフト対策

視覚障害者への声かけサポート啓発事業

内容 視覚障害者の駅ホームからの転落事故防止のため、各地域で声かけサポートを普及するリーダーを育成する講習会を開催

対象：平成26年度は県内10地域で開催予定



駅のホームから落ちそうで、いつも不安。誰かが声をかけてくれたら安心なのに...

お困りですか？
お手伝いしましょうか？
そちらは危ないですよ。
段差がありますよ。



視覚障害者を交えた介助方法の講義

* 志木市での講習会の模様は1月21日のNHK首都圏ネットで放送



駅ホームにおける実技指導

駅ホームからの転落防止対策会議

目的 行政と鉄道事業者が一体となり、駅ホームからの転落防止に向け情報共有や意見交換を図る